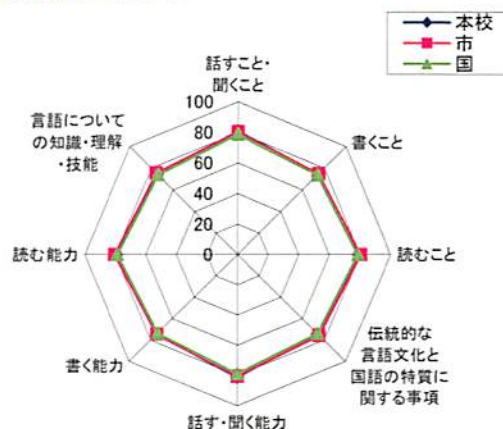


宇都宮市立横川中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

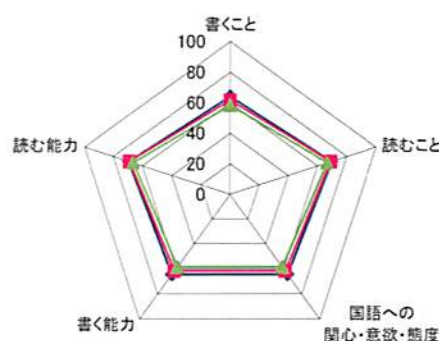
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	81.0	80.5	78.9
	書くこと	74.5	74.7	73.7
	読むこと	79.6	80.5	78.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.6	75.6	73.9
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	81.0	80.5	78.9
	書く能力	74.5	74.7	73.7
	読む能力	79.6	80.5	78.6
	言語についての知識・理解・技能	74.6	75.6	73.9



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと			
	書くこと	64.2	61.6	58.3
	読むこと	69.6	69.1	66.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	64.2	61.6	58.3
	話す・聞く能力			
	書く能力	64.2	61.6	58.3
	読む能力	69.6	69.1	66.5
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

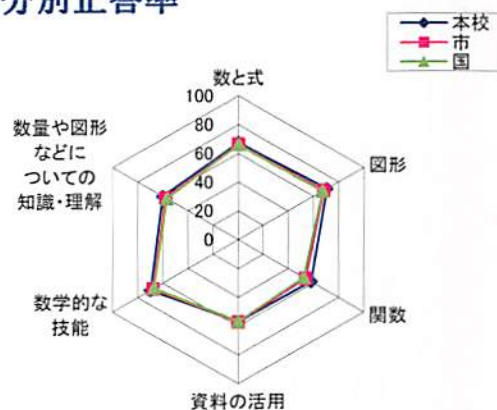
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「絵本のページを提示した意図として適切なものを選択する」問題では、全国の正答率が78.1%だったのに対し、本校では83.2%と5.1ポイント上回っている。 ●「聞き手をどのように想定して話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する」問題では、全国の正答率が80.7%だったのに対し、本校は77.6%と3.1ポイント下回っている。	聞き手を想定した資料の選択や、表現の工夫を意識してスピーチをする機会を多く設けていく。さらに、相互評価することによって、実際にどのような効果を生んだのかを振り返る機会を同時に設けていきたい。
書くこと	○「文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く」問題では、全国の正答率が68.0%だったのに対し、本校は75.8%と7.8ポイント上回っている。	自分の考えを具体的に書く力が身につけてきた生徒が多い。理由や根拠を明確にして書く機会を今後も継続して設けていく。更に今後は、反対意見や説得力の高い根拠を挙げることによって、読み手を納得させるような文章を書く機会を増やしていきたい。
読むこと	○「目的に応じて必要な情報を読み取る」問題では、全国の正答率が64.7%だったのに対し、本校は78.9%と14.2ポイント上回っている。	問われている内容を文章中から抜き出す力が身につけてきている。しかし、段落や文章全体の要点を捉えながら読む力が身につけていない生徒が多い。そのため、接続表現などに着目し、要点をまとめながら読むことによって、文章を論理的に読む力を身につけていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読み書きにおいては、ほとんどの問題で全国の平均を上回っている。 ●「辞書を活用し、漢字が表している意味を正しく捉える」問題では、全国の正答率が60.3%だったのに対し、55.3%と5.0ポイント下回っている。	基礎・基本的な漢字の読み書きは身につけている。しかし、似た形の漢字や部首の違いなど、紛らわしい漢字の使い分けができていない生徒がいる。そのため、漢和辞書を用いて部首や漢字の意味を調べる機会を設けていく。

宇都宮市立横川中学校第3学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

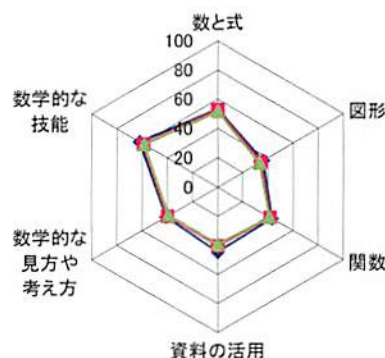
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	67.5	66.4	65.9
	図形	70.7	68.1	67.1
	関数	58.0	53.7	52.0
	資料の活用	56.7	56.9	56.5
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	69.9	67.8	66.9
	数量や図形などについての知識・理解	60.1	57.8	56.8



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	53.2	52.7	51.5
	図形	36.3	34.5	33.3
	関数	43.4	41.9	41.4
	資料の活用	44.7	40.5	39.3
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	40.9	39.9	38.9
	数学的な技能	62.0	59.2	58.5
	数量や図形などについての知識・理解			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	●数量の関係を文字式で表す問題が全国の正答率が32.2%だったのに対して、本校は27.3%と5%ほど差がある。無回答率は、全国を下回っている。何かしらの式を書くことができるが数量関係を正確に把握できていないことがわかる。	基本的な計算は概ねできている。数学的な語句、例えば商や積といった言葉を正確に理解できていない生徒が見られるので、数学的な表現を授業中に押さえるようにしたい。
図形	○辺の比をもとに、三角形がどのような三角形になるか答える問題では、全国を7.1%上回っている。 円柱の体積をもとに、円錐の体積を求める問題では、全国の正答率を11.6%上回っている。 ●対象移動した図形をかく問題では、全国の正答率を5.3%下回っている。図形の移動を、正確に理解していないことがわかる。	図形の計量の問題は正確に答えられる生徒が全国を上回っていることがわかる。しかし、図形の移動を正確に行ったり、立体の見取り図から角の大きさなどを見とることは苦手としているので、実際に図形の移動をさせたり、見取り図をかかせる作業を通して、力を養っていきたい。
関数	○比例や反比例については、どの問題も全国の正答率を上回っている。	関数について、グラフや表、式について基本的な内容を理解している生徒は多い。しかし、求められたものが何を表しているかや、等しくなる理由を答えることは全国と比べて苦手としている。関数の分野を学習する際、日常的に内容のものを題材として扱うことによって、説明する力を身に付けさせたい。
資料の活用	●近似値や誤差を利用して答える問題では、全国の正答率を5.5%下回っている。 ●「同様に確からしい」ことの意味を考える問題では、全国の正答率を3.5%下回っている。	確率を正確に求めることができる生徒は全国に比べて多いが、「同様に確からしい」、誤差、近似値、などの言葉の意味を理解できていない生徒も多い。意味を理解するのが難しい言葉なので、実際の問題を解きながら指導し、言葉の意味を理解させたい。